

## 東京と世界政治研究会

鳥潟優子（同志社女子大学）

世界政治研究会に初めて出席したのは2003年3月、川嶋周一さんの報告で、欧州統合と大西洋同盟をめぐるドゴール外交のセッションでした。ちょうど私が大阪大学で博士号を取得した頃です。私自身も直後の5月、「ベトナム戦争と仏米同盟―「中立化」構想をめぐるドゴール外交の展開」と題する報告の機会をいただきました。

市川ひろみさんと同様、関西で大学院・学位取得まで過ごしてきた私にとって、もともとヨーロッパ国際関係史の研究者との交流はそれほど多くなかったうえに、2003年夏、東京に転居しました。そうした中で、世界政治研究会は貴重な出会いの場となり、石田憲さんをはじめとする欧州研究者の方々、水本義彦さん、芝崎祐典さんら同世代の首都圏の研究者の方々との交流が始まりました。2004年夏からはアメリカとフランスに留学し、2006年夏に帰国しました。帰国後も世界政治研究会で報告や出席を重ね、宮城太蔵さん、池田亮さん、山本健さんをはじめとする同世代の研究者とのつながりがいっそう広がりました。2007年秋からは任期付ポストをえて大阪に戻りますが、2010年頃までは頻繁に研究会に参加しました。世界政治研究会での学術交流の機会なくして、その後の研究の発展はなく就職にも至れなかったように思います。

実は、世界政治研究会での初回の報告は散々でした。当時、学会発表はもちろん学外での研究報告すら初めてだった私は極度に緊張し、セッション中、しばしば言葉に詰まりました。それにもかかわらず、参加者の方から矢継ぎ早に多方面からの質問やコメントを頂き、うまくお答えできなかったことも含めて大きな刺激となり、その後の研究の足掛かりになりました。私自身の研究はベトナム戦争など戦後東南アジアをめぐる欧米関係史ですが、世界政治研究会を通じて、欧州研究者のみならず、アメリカ外交史や日本外交史など幅広い研究者から数えきれないほどの研究上のヒントを頂いたように思います。

世界政治研究会では、あくなき探求心を備えた方々が集い、出席者は専門が近くても遠くても各々自らの関心に基づいて、容赦なく質問やコメントを投げつけます。3時間に渡る研究会では、報告者としてだけでなく、一出席者としても相当鍛えられました。さらに研究会後の食事会でも、研究の話が継続します。就職が決まらなかった首都圏在住時には、毎月研究会に出席していたこともあり、2007年夏、石田憲さんの西片のご自宅に高木綾さん、片桐確さんと招待され、お食事を通じて、歴代のワインリストを拝見するなど、学術のみならず重厚な文化的背景にも触れさせていただいたのも忘れられない思い出です。

2010年春以降、就職により関西に定着し、慌ただしさに紛れて徐々に足が遠くなりました。コロナ禍以降、対面での研究会が減り寂しく感じる一方で、遠方からZoomで東京の研究会に参加できることを大変ありがたく感じています。今後も皆さまに世界政治研究会の場でお会いできることを楽しみにしつつ、主宰し続けてくださる石田憲さんに心より感謝いたします。